

開倫塾の特長は、教科の学習と同時並行して、学習方法と読解力も身に着けること

開倫塾

塾長 林 明夫

Q 1 : ズバリ、開倫塾の特長は何ですか。

A : 教科の学習と同時並行して、学習方法と読解力を身に着ける指導を行っていることです。

Q 2 : なぜ、学習方法と読解力なのですか。

A : (1) 学習方法と読解力が十分に身に着いている塾生の皆様は、開倫塾のカリキュラムに沿い、開倫塾の教育プログラム通りに教科の学習をきちんとすれば、必ず、学校成績は向上し、第一志望校への合格を果たすことができるからです。

(2) しかし、学習方法と読解力が身に着いていないと、開倫塾の授業に出ているだけでは、学校成績を確実に向上させることと、第一志望校の合格を確実に果たすことは少し難しいと考えます。

Q 3 : なぜ、学習方法が大切なのですか。

A : (1) よく考えれば、ご納得いただけると思います。学習には様々な場面があり、各場面ごとに適切と思われる学習方法があると、私は考えます。

例えば、

- ① 授業の予習の方法
- ② 授業の受け方
- ③ 授業中のノートの取り方、活用の仕方
- ④ 復習の方法
- ⑤ 定着の方法 (定着のための3大練習の方法)
- ⑥ 定期テストに対する学習方法
- ⑦ 模擬試験に対する学習方法
- ⑧ 受験学年の年間の学習方法
(春、夏、秋、冬、受験直前、各々の学習方法)
- ⑨ 入学試験 (筆記試験) に対する学習方法
- ⑩ 入学試験 (面接試験) に対する学習方法
- ⑪ 入学試験 (論文試験) に対する学習方法
- ⑫ 漢字検定試験に対する学習方法
- ⑬ 英語検定試験に対する学習方法
- ⑭ 算数・数学検定試験に対する学習方法
- ⑮ 高校卒業後、大学等に入ってから学習方法

- ⑯採用試験に対する学習方法
- ⑰学校卒業後の、社会人としての学習方法
- ⑱資格試験、国家試験に対する学習方法
- ⑲パソコン、外国語、専門技術の学習方法
- ⑳生涯にわたって学び続けるための学習方法

(2)これらの各場面ごとに、どのような学習方法が一番ふさわしいかを自分の力でじっくり考え、試行錯誤を繰り返しながらも、各場面ごとの目的を達することができるのは素晴らしい能力です。「学習(方法)の学習」ができることは、これからの時代に最も求められる能力と高く評価されます。

(3)ただし、これらの各場面ごとに適切な学習方法を自分の力で探し求め、自分に最もふさわしい学習方法を選択し、実行に移すことができる人は極めて少ないのが現状と思われます。

(4)あとになって「ああすればよかった」と考えることができても、自分の人生にとって初めての場合には右往左往するだけで、その場しのぎのことしかできないのが普通ではないかと、私には思われてなりません。

Q 4 : 開倫塾では、塾生が学習方法を身に着けるために、どのような取り組みをしているのですか。

A : (1)1979年に開倫塾を創業し、今年で38年目に入ります。その間に、塾生・保護者・地域社会の皆様へ、一番お困りになっていることは何かをお聞きすると、「学習方法がわからない」という答えでした。

(2)そこで、開倫塾では創業以来一貫して、各場面にふさわしい「効果の上がる学習方法とは何か」を、すべての校舎、すべてのクラスで、先生方が熱心に伝え続けています。

(3)また、お一人お一人に最もふさわしい学習方法を、塾生・保護者の皆様とともに考え、その実現に向けて支援させていただいています。

(4)家庭での長時間自己学習が困難な塾生の皆様のために、開倫塾の空いている学習スペースを夜10時30分まで提供しています。

(5)開倫塾の広報誌である、毎月1日発行の「開倫塾ニュース」では、20年以上にわたり、その時期その時期の「効果の上がる学習方法とは何か」をすべてのページで特集しています。

(6)開倫塾の教育目標である「自己学習能力を身に着けよう」のコーナーでは、20年以上にわたり、学年別・教科別に、その月の学習方法をわかりやすく解説しています。

(7)塾生の皆様の各学校や各校舎での取り組みも、毎号紹介させていただいています。塾長である私も、毎回、「効果の上がる学習方法」を巻頭言として紹介しています。是非、熱心にお読みいただき、ご活用ください。

(8)塾長が担当する CRT ラジオ栃木放送「開倫塾の時間、林明夫の歩きながら考える」(毎週土曜日、朝9時15分から10分間放送)でも、社会人を含めた「効果の上がる学習方法」を伝え続けてきました。今週の土曜日3月4日で31年目、1561回目を迎えることができました。

(9)このように、開倫塾では、1979年の創業以来一貫して、各場面ごとに最もふさわしい「効果の上がる学習方法」の指導を行っています。開倫塾の特長として認識し、十分にご活用いただきたいと強く希望いたします。

Q 5 : なぜ、読解力が「学校成績の向上」と「第一志望校の合格」に必要なのですか。

A : (1) 開倫塾の塾生の皆様が受験する入試は、

- ① 私立中学校入試
- ② 公立中高一貫校入試
- ③ 私立高校入試
- ④ 県立高校入試
- ⑤ 国立工業専門学校（高専）入試
- ⑥ 大学センター入試
- ⑦ 私立大学入試
- ⑧ 国立大学 2 次試験入試

です。

(2) これらの入試の各教科の問題の文字数を合計すると、文庫本や新書本にして 20 から 30 ページぐらいになります。また、各教科の問題文・設問・選択肢などには、数多くの漢字や難しい表現が含まれます。

(3) 入試には、出題される各教科の知識がもちろん必要です。ですから、開倫塾では先生方が必死になって受験に必要な教材を開発し、熱心に授業を行っています。

(4) ただし、身に着けている「ことばの数（語彙数）」が少ないと、問題文・設問・選択肢などを読み解き、正解を導くことが困難です。

(5) また、問題文・設問・選択肢などを読み解くスピードが遅いと、試験時間内に最後の問題までやり終えることが困難です。

(6) せっかく、受験勉強をして各教科の知識を身に着けても、身に着けている「ことばの数（語彙数）」が少なく、問題を時間内に正確に読み解く力（読解力）を身に着けていなければ、第一志望校に合格を果たすことは困難です。

(7) 定期テストにも同じことがいえます。語彙数と読解力は学校成績の向上に直結します。

Q 6 : 開倫塾では、読解力を身に着けるためにどのような取り組みをしているのですか。

A : (1) 開倫塾では、読解力を身に着けるために、「辞書」「新聞」「読書」の活用を推進しています。

(2) 身に着けている「ことばの数（語彙数）」が十分でなければ、そこに書いてある内容だけでなく、耳にする内容も理解が困難です。このことは、日本語だけでなく、英語にも当てはまります。

(3) 日本語なら、書いてあることは何でもわかる、話されていることは何でもわかるかといえ、必ずしもそうではありません。もっといえば、日本語でも、英語でも、読んでわからないことは聞いてもわからないといえます。

(4) 「ことばの数（語彙数）」を増やすには、どうしたらよいのでしょうか。

(5) 文章を読んでいて読みや意味などがわからないことばに出合ったら、「気持ちが悪い」と考え、「辞書」を用いて調べること。

(6) 「辞書」で調べた内容は「意味調べノート」や「カード」に書き写し、その場で正確に覚えること。

- (7)書き写した「ノート」や「カード」は、1 ページ目、1 枚目から毎日繰り返し読み直すこと。
- (8)日本語も、英語も調べたことばは用いられている文章や文脈の中で覚えること。
- (9)このようにして、1 日に 10 語から 20 語を「辞書」を用いて調べ、そのことばが使われている文章とともにその場で正確に覚え、「ノート」や「カード」にその意味を書き写して毎日 1 ページ目から繰り返し読み直すこと。
- (10)これが、読解力を身に着ける 1 番目の取り組みである「ことばの数（語彙数）」を増やす最も確実な方法です。

Q 7 : 「新聞」と「読書」を活用すると、読解力が身に着くのですか。

- A : (1) 試験問題を正確に読み解き、正解を導くことができるだけの読解力を短期間に身に着けるのに最も効果があるのが、「新聞」と「読書」です。
- (2)新聞を毎日 1 面からなめるようにていねいに読み、学校の図書室や公立の図書館にあるような本を腰を落ち着けてじっくり読めば、読解力は短期間で確実に身に着きます。
- (3)読解力が不足していると考えられる塾生の皆様には、新聞を毎日 30 分間、1 面からていねいになめるように読むことと、図書館から借りてきた本を毎日 30 分間、腰を据えてじっくり読むことをお勧めします。
- (4)読んでいて気になった新聞記事は、ハサミで切り取って「スクラップブック」に糊で張り付けましょう。
- (5)ただし、図書館の新聞や他人の新聞を切り取ることは犯罪行為となります。切り取っているのは、自宅で購読して、不要になった新聞のみです。そのときは必ず、保護者の許可を得てください。
- (6)保護者の皆様には、家庭で新聞を購読し、お子様に新聞を毎日よく読むように指導することと、不要になった新聞を教材としてプレゼントすることをお願いいたします。
- (7)読書をして、気に入ったことや大切と思われることが書いてあったら、「書き抜き読書ノート」に書名・作者名とともに書き写しましょう。
- (8)新聞はじっくり読むこと、本もじっくり読むことが大切です。
- (9)じっくり読んだら、新聞や本に書いてある内容について、折に触れて考えること。できれば、新聞や本を読んだ時間の倍ぐらいの時間を用いて、自分の考えをまとめたり、文章にしたりすること。また、みんなで話し合ってみることをお勧めします。
- (10)新聞や読書で得られるのは、読解力だけではありません。新聞からは自分で考える力と批判的思考能力が、読書からは思慮深さと自分自身を振り返る力（省察力）が、少しずつ身に着きます。

Q 8 : 最後に一言どうぞ。

- A : このような学習方法と読解力の身に着け方の指導を、創業以来 38 年間、教科の学習指導とともにコツコツと行っていることが、開倫塾の大きな特長です。是非ご活用をお願いいたします。

2017 年 3 月 2 日（木）9 時 20 分